

GINGA REPORT 401

No.68
2021.01

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和3年1月1日
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

1月の星空

星図：ステラナビゲータ9/(株)アストロアーツ

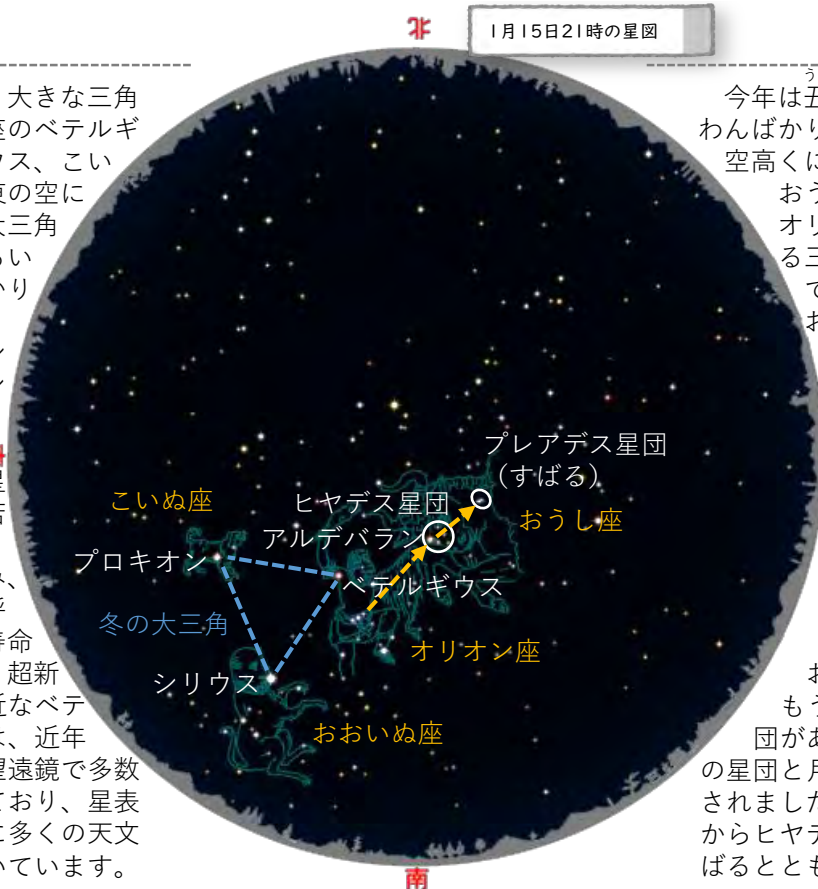
冬の大三角を探そう

乾いた冬の空には明るく大きな三角形が輝きます。オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンと、南東の空に三つの星を繋げば、冬の大三角のできあがり。どれも明るい一等星で、色の違いがわかりやすい星々です。

ベテルギウスは赤色、シリウスは白色、プロキオンは黄色で、色の違いから様々な情報を知ることができます。例えば、赤い星は年老いた星。白い星は若く勢いのある星です。赤く年老いた星は大きく膨らみ、最終的には超新星爆発と呼ばれる大爆発を起こし、寿命を迎えるとされています。超新星爆発間近なベテルギウスは、近年その姿を望遠鏡で多数撮影されており、星表面の変化に多くの天文学者が驚いています。



ベテルギウスの様子
ALMA (ESO/NAOJ/NRAO)
/E. O’Gorman/P. Kervella



北

1月15日21時の星図

今年の主役 おうし座

今年はおうし座です。待ってましたと言わんばかりに、年明けの頃には、南の空高くにおうし座が輝きます。

おうし座を探すのは簡単です。オリオン座のベルトの部分にある三つの星を、西の空に向かって伸ばしていくと、赤く光るおうしの目玉、アルデバランが見つかります。さらに伸ばした先には、プレアデス星団。星団というのは何百から何千という星の集団で、すばるとも呼ばれるプレアデス星団は、中でも特に有名です。

雨ふり星 ヒヤデス

おうし座の顔のあたりには、もう一つヒヤデス星団という星団があります。古代中国では、この星団と月が重なると、大雨になるとされました。そのため、日本でも古くからヒヤデスは雨ふり星と呼ばれ、すばるとともに注目されていました。

1月のガリレオ教室

今年注目の天文現象

2020年の部分日食に続き、2021年は皆既月食を楽しむことができます。今年注目の天文現象を、天文ボランティアと一緒に学んでいきましょう。

日時：1月10日(日)
① 11:00~11:20
② 14:00~14:20

場所：5階 コズミックラウンジ
料金：無料
定員：14名



今月の天文トピック

「おかえりなさい」「いってらっしゃい」はやぶさ2



リュウグウのサンプル
「ファン!ファン!JAXA!」より

昨年12月6日に帰還したはやぶさ2のカプセルから小惑星「リュウグウ」の砂が見つかりました。今回持ち帰ったサンプルはなんと約5.4グラム!!「はやぶさ2」設計時の目標サンプル収量だった0.1グラムを大きく超えるサンプル量が採取できていたこととなります。帰還カプセルを切り離れたはやぶさ2は、これからまた別の小惑星の探査へと向かいます。これからの活躍にもご期待!

スターウォッチング

博物館主催きさら号観望会

日時：1月23日(土) 18:00~19:30
場所：博物館前市民公園
内容：月と火星を見よう



編集後記

プラネタリウムで遠い宇宙に思いをはせるとき、寒空の下明るく輝く星を見つけたとき、誰もが疑問に思ったことがあるだろう、「宇宙人はいるのか」と。宇宙探査の進歩を実感するたび、この答えが見つかるかもとワクワクする。リュウグウのサンプルには太陽系が出来たころの記憶が眠っている。まずは、私たちがこの宇宙に生まれた理由、そのヒントを与えて欲しい。

1月の月

- 6日 下弦
- 13日 新月
- 21日 上弦
- 29日 満月

※天候不良時は中止です。
※当日受付・参加無料です。
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。